

2021/4/28

リトルハウス通信

新年度を迎えて1ヵ月が過ぎようとしています。

そんな中、リトルハウスでとても嬉しい出来事がありました。

それは約3年間リトルハウスの在籍していた利用者Bさんが、障害者雇用枠で企業への就労が決まった事です。

Bさんは原則、リトルハウスにおいて、週3回、午前中のみ通所の方だったのですが、就労先企業から、採用条件のひとつとして、リトルハウスにて最低2ヶ月間、週5回、フルタイム（10時～15時）の通所をする事が就労条件として提示されました。

就労先企業では、平日9時30分～16時での出勤が求められており、その就労リズムに予め慣れておく必要があると判断されたからです。

そこでBさん、担当の計画相談員さん、そして私の三者で、リトルハウスでのフルタイムの通所の実現に向けた計画を昨年10月から立て始めました。まずは午前中のみ週5回を目標にしばらく通所を続け、その通所スケジュールに慣れてきたら、徐々にフルタイムの通所の日にちを増やしていく計画です。

当初Bさんは、リトルハウスでの週5回、フルタイム（10時～15時）の通所に対して、強い不安と抵抗を感じている様子でした。しかし就労先のその条件は就労するにあたり避けては通れないものです。

結果、Bさんはその現実を真正面から受入れ「リトルハウス2ヶ月間フルタイム通所」をやり遂げたのです。これで晴れて、3月からいつでも就労に進めると我々は大きく喜んでいました。

そんな中、就労先企業からわたし宛に1本の電話が入りました。

「コロナ渦の中で、3月からの就労は難しい。もうしばらくリトルハウスでフルタイムの通所を続け、弊社で就労できるタイミングまで待機してほしい」旨の連絡です。

私はBさんにその内容を伝えました。するとBさんは静かに「わかりました。就職できるまで頑張ってリトルハウスにフルタイムで通所します」と仰いました。

その表情は、リトルハウスでのフルタイムの通所に強い抵抗感を持っていた当初のBさんの表情ではなく、キリッとして、そしてとても清々しい表情でした。

また、昨年の10月に教育実習生としてリトルハウスに来ていた方が、本年3月、ボランティアで久しぶりにリトルハウスに来て下さったのですが、その時「鈴木さん！ Bさんの顔つきがまるで変りましたね！とてもたくましい表情に変化していて本当に驚きました」といわれていました。Bさんは就労という夢を実現する為、そのハードルを自らの力で乗り越え、ひとつの「自信」を手に入れたのではないのでしょうか。

その後、就労先企業でBさんの受入れ体制が整い、晴れて4/16に入所式を迎える事ができたのです。私もその入所式にお母さまと一緒に参列しました。Bさんは人事担当者や直属の上司の方からのお話を丁寧にメモに取り、真剣な表情でお話を聞いていました。

それから数日が過ぎたある日、リトルハウスの利用者の方が、偶然、通勤途中のBさんとバスの中で一緒になったそうです。そこでBさんは「とても今の仕事が楽しい」と元気に仰っていたとのことでした。

私はその話を聞き、本当に嬉しい気持ちでいっぱいになりました。今後も陰ながらBさんを応援していきたいと思えます。

最後に、

Bさんの入社式の画像をご覧ください。

落ち着いて入社式に参列している姿がとても印象的でした（鈴木）

